

## 周布地区タウンミーティング開催報告

|  |   |   |
|--|---|---|
| 日 時  | 令和3年11月12日（金）13：30～15：00  |   |
| 場 所  | 周布公民館 2階会議室   |   |
| 参加者  | <p>【地域側：12名】周布地区連合自治会長・副会長、民生児童委員会、公民館利用者代表、社会福祉協議会周布支部長、愛護班長、JA周布女性部長、周布小学校長、婦人会長、老人クラブ連合会長、防犯協会周布支部長、体育協会長</p> <p>【行政側：4名】市長、周布公民館長、環境部長、建設部長</p>   |   |
| 次 第  | <p>1 開会 2 挨拶（周布地区連合自治会長）</p> <p>3 市長挨拶・事業説明</p> <p>4 意見交換：テーマ「明るく住みよい周布地区づくり」（現状と課題説明及び参加者全員による話し合い）</p> <p>5 まとめ・閉会</p>  |   |
| 概 要  |   |   |
| 自治会長挨拶   | 周布地区が明るく住みよい地区となるよう、地域の課題や問題を大きく3つの分野に分けた。①市道の整備状況、②下水道工事の現状とごみ処理方法、③各種活動における活性化の手段について、市長と皆さんで意見交換したい。   |   |
| 市長事業説明   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。</li> <li>・ 西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人）</li> <li>・ 人口減少対策として移住推進に力を入れており、みんなで「共創」して持続可能なまちを実現していきたい。</li> </ul> |   |
| 参加者の発言要旨   |   | 市の発言要旨（及び対応）  |
| <p>&lt;周布地区内の市道整備について&gt;</p> <p>地区内の市道の維持管理状況はどうなっているか。また、全体に対する市道舗装率をお聞きしたい。</p>   |   | <p>平成28年度から令和3年10月までに、舗装改修工事を14路線で28箇所、約8,300㎡実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西条市内全域の路線延長 …約1,093km<br/>うち舗装延長 …約921km、舗装延長率約84%</li> <li>○ 東予地区の路線延長 …約304km<br/>うち舗装延長 …約297km、舗装延長率約98%</li> <li>○ 周布地区の路線延長 …約47km<br/>うち舗装延長 …約45km、舗装延長率97%</li> </ul> |
| <p>&lt;道路舗装について&gt;</p> <p>周敷神社西側の市道長田久枝線における未舗装区間（約120m）の整備をお願いする。道幅が狭く、車の通行が少ないからこそ、高齢の歩行者が安全に利用できるよう対応してほしい。</p>                            |   | <p>舗装工事は緊急性を除き、主要な幹線道路や集落間を繋ぐ市道を優先して行っている。現在、各地区の自治会長等から承っている舗装要望は、合計10箇所、約2.8kmであり、R3年度の予定は、市道長田貝田線（花園幼稚園北側の交差点から北向きに次の交差点約100m）としている。今回要望のあった長田久枝線も、順次実施する予定。優先すべき場所など自治会長と協議しながら、何年かかけて実施したい。</p>  |
| <p>&lt;道路標示について&gt;</p> <p>停止線や外側線が消えている箇所が多い。地区内では徐行するが、地区外の人が入り込んでしまった場合、スピードを落とさず通行することがあり、危ない。安全のため、ラインの引き直しを要望したいが、対応は市か、それとも警察になるのか。</p> |   | <p>一時停止・追い越し禁止線など規制がかかるものは警察が行うので、今回の案件も警察に要望していく。ただ、警察にも予算の関係があるので、全てをすぐに実施するのは難しいだろう。外側線の引き直しは道路管理者である市が対応する。市民の命を守ることは我々の重大な責務であるので、通学路点検も含め、安全確保のためにしっかり対応していく。</p>   |

| 参加者の発言要旨   | 市の発言要旨（及び対応）  |
|--|---|
| <p>&lt;下水道事業について&gt;</p> <p>以前、周布・吉田地域において、下水道工事に関するアンケートが実施された。その後の経過と今後の事業の見通しについて教えてほしい。</p>  | <p>平成21年度に公共下水道事業における全体計画区域の見直しのため、区域外に住む約17,300世帯を対象にアンケート調査を行った。市全体で約6,000世帯、そのうち、吉田地域142世帯、周布地域380世帯から回答を得た。</p> <p>結果は吉田地域の約7割、下流区域にあたる周布地域の約4割が「下水道が必要」との回答だった。</p> <p>周布地域は約9割が浄化槽設置世帯で水洗化が進んでいることもあり、低い結果であった。</p> <p>昭和49年から着手した下水道事業は、これまでに約610億円を投じている。事業計画区域のうち、約8割が整備済だが、残り2割の整備に約25年、約60億円を要する。吉田地域を含む事業計画区域外を整備すれば、完了までに更に60年以上、事業費も追加で280億円以上が必要と試算している。</p> <p>これらの状況と既存施設の老朽化及び人口減少を踏まえ、今後は整備区域を縮小する方針で検討する。</p> <p>事業費については本来、使用料により賄うことが原則である。R10年度を目標に市内の料金統一（段階的な値上げ）を図るが、その後も料金を改訂する必要がある。</p> <p>吉田地域は事業計画区域外であり、今後も下水道整備はできないが、合併処理浄化槽の補助金を設けているので、ご利用いただきたい。</p> |
| <p>&lt;ごみの出し方、排出量削減について&gt;</p> <p>冒頭の市長説明の中で、西条市はごみの排出量が県内ワースト1位とあった。状況を詳しく教えてほしい。</p>  | <p>生活系（燃える・燃えない）ごみにおける1人1日当たりの排出量が県内11市中でワーストの状態が続いている。</p> <p>ごみ減量化のためにも、ごみ袋の有料化について「西条市廃棄物減量等推進審議会」で審議しているところである。</p> <p>（現状：各世帯に無料配布…燃えるごみ用：年間110枚、燃えないごみ用：年間20枚）</p>  |
| <p>ごみ袋の配布数は、1世帯単位で決まっており、居住人数は関係ない。</p> <p>不足する場合は追加購入することになっているが、公平に行き渡っているか疑問である。余る人は売っているとも聞く。</p> <p>公平性を考えれば、ごみ袋を有料化して各自必要な枚数だけを購入するのが良いのではないか。</p> | <p>人数ではなく、世帯単位で配っているため、過不足の問題が現実にある。問題の解消とごみ減量化をしなければならない。その手段として、ごみ袋の有料化が必要ではないかと議論しているところである。</p> <p>あわせて、ごみ袋のサイズを数種類用意すること（現状：容量40L超サイズ）、小売店やコンビニ等での販売も検討したい。</p>  |
| <p>粗大ごみ処理券（シール）は、年間10枚が上限（不足時は1枚100円で購入）で、過年度分は使えない。10枚では少ないので、過年度分も使えるようにしてはどうか。</p>  | <p>リサイクルショップ等を利用していただくなど市民一人ひとりにごみ減量を意識してほしいので、ご希望には応じられない。</p> <p>また、処理券の有料化・戸別回収も考えている。連絡をいただいて玄関先まで取りに行くという方法であれば、特定の収集場所に違反ごみが残ることもない。現在検討しているので、決まり次第お知らせする。</p>   |

| 参加者の発言要旨  | 市の発言要旨（及び対応）  |
|---|---|
| <p>&lt;危険箇所の注意喚起について&gt;<br/> 地域内には、潜在的な危険箇所があると思う。<br/> 本郷川は片側がアスファルトの車道であり、反対側は雑草が生えて転んでも落ちないが、車道側は、転んだらすぐに落ちてしまうような危険がある。そのような場所を点検し、危険をなくしてほしい。</p>   | <p>毎年、様々な機関と一緒に通学路点検を実施している。<br/> 危険箇所は、皆さんがよくご存知だと思うので、取りまとめて教えてほしい。対応を検討し、地域の方へ報告するようにしたい。</p>  |
| <p>&lt;公民館の整備について&gt;<br/> 公民館の駐車場が狭いので、訪れる際は駐車できるかどうか、いつも心配である。<br/> 駐車場が広い公民館は来館者も多く、活動が盛んだと感じる。<br/> 館内もバリアフリーではなく、トイレも気持ち良いものではない。<br/> 駐車場確保のためにも、公民館を移転して建て替えができれば良いと思う。地域の皆が行きやすいような環境を整えていただきたい。<br/> 他にも建て替えを希望する地区があると思うが、いつまで待てば良いか。</p> | <p>西条市には、築後30年以上経過した公共施設が全体の55%あり、今後40年間で公共建築物の延べ床面積を20%削減する計画を立てている。<br/> 公民館や消防詰所など、これまでのように新築することが皆さんの希望だと思うが、人口が減少する中で、将来世代の負担にさせないためには、別の視点で考えなければならない。<br/> 現状では、新たな土地を購入して施設を建てる財源はない。利用状況を分析すると、施設利用者は固定化しており、施設の機能を複合化させることで、稼働率を上げることも求められる。</p> <p>神戸地区でも公民館の建て替え要望が出ているが、小学校との複合化を検討している。これは令和7年度に計画している東部地域の給食センター化に伴い、不用となる給食室スペースに公民館を設置する案である。学校校舎の長寿命化改修工事に合わせ、家庭科室等は地域との共用化を図る。<br/> 複合化は多世代交流の促進等でも良い点があり、駐車場問題も解決する可能性もあるが、空き教室やスペースがないと入れないという問題はある。<br/> どの公民館をいつまでに建て替えるかという全体計画はない状況。ただ、周布公民館は昭和52年築で44年が経過しており、今後は複合化による施設の活用も含め、皆さんと協議しながらよりよい方向を求めていきたい。</p> |
| <p>&lt;公園の整備について&gt;<br/> この地域には、若い夫婦が気軽に集い、子どもを遊具で遊ばせられるような公園がない。<br/> 空いている田畑を市が借り受けて公園を設けてはどうか。</p>  | <p>ご要望いただいたのは、ちびっこ広場のようなものだと思うが、例えば、丹原中央公園や丹原総合公園、りんりんパークーを利用するなど、「そこになければならない」と言うよりは、あるものをどう使っていかかという問題だと思う。<br/> 丹原中央公園は多くの方にご利用いただいております。都市公園の整備は、新たに飯岡に建設中の東部公園をもって終了にしたいと考えている。<br/> 東予運動公園では、遊具があるのに使えない状態で、いつまでも放置してはいけません。撤去にも経費が必要になってくるが、今後は、必要に応じて撤去または修繕に予算を費やしていきたい。</p>   |
| <p>&lt;広報紙の配布方法について&gt;<br/> 広報紙が全戸配布（委託業者によるポスティング）になったことで、地域の人々が各世帯を訪問することも減り、独居老人の情報を得にくくなった。</p>  | <p>広報紙はこれまで配布員の方にお問い合わせでしたが、自治会員以外に届かないこと及び配布コストが高額であることから見直し、委託業者が全戸に配布する方法に変更した。<br/> 変更したばかりであるため、このやり方で様子を見ていきたい。</p>   |

| 参加者の発言要旨   | 市の発言要旨（及び対応）   |
|--|--|
| <p>&lt;自治会などの地域活動について&gt;<br/> 地域のつながりが見えにくくなり、自治会長でさえ地域のことを把握しきれていないのが現状だと思う。<br/> やはり自治会がしっかりしないといけないと思うが、加入率が下がってきていると感じる。<br/> 広報紙でも自治会の取組みを紹介しているが、現在加入率はどのくらいか。<br/> 自治会を維持するために市ではどのようにしているか。</p> | <p>日頃から顔の見える関係性が災害時において有効であるが、核家族化・地域交流の希薄化が進み、自治会へ加入しづらい状況も生じている。<br/> R3年6月1日現在の自治会加入率は、市全体で60.44%、東予地区では67.06%、周布地区では51.17%である。<br/> 自治会加入の負担を減らす工夫として、独居老人や高齢世帯へ役を当てないこと、会費を軽減すること等が考えられる。</p>   |
| <p>&lt;地域活動の工夫について&gt;<br/> 工夫して地域活動をしている例があれば、アドバイスいただきたい。</p>  | <p>西条市では現在、地域自治組織を設立しようという動きがあり、橘・大町校区では既に地域自治組織が設立され、市とパートナーシップ協定を結んでいる。<br/> 氷見でも協定に向けて地域自治組織が設立されており、旧東予地域では、国安と多賀が検討組織を立ち上げている（チームKUNIYASU、多賀・未来づくり準備会）。<br/> 地域自治組織では、一つの団体だけに任せるのではなく、みんなで世話をし合い、地域を良くするためにどうしていくか話し合っている。<br/> 今後のコミュニティを考えると、自治会長だけ、婦人会長だけ、あるいは体育協会会長だけ…というような問題ではなく、横並びになり、皆で地域に必要な役割を決め、参加するような活動にしてはどうか。<br/> エネルギーを要することだが、周布地区に合ったやり方を考えていただければ、職員は必ずサポートする。公民館のあり方も変わらざるを得ない状況になってくる。皆さんの声を聴きながら変えていきたい。</p> |
| <p>大町や橘地区のパートナーシップ協定の例では、市から何らかの補助は出ているのか。</p>   | <p>パートナーシップ協定を締結した地域自治組織には交付金を交付しており、その中で活動できるように進めている。</p>  |
| <p>&lt;要望に対する市の回答について&gt;<br/> 自治会長および会員の連名で、要望書を提出していたが、それに対する市からの連絡がなかった。問い合わせをしたところ、工事の予定であるが、時期は不明とのことだった。<br/> 要望書を出している以上、自分のところにも結果の報告がほしい。対応できないのなら、その旨の連絡をしてほしい。</p>                            | <p>申し訳ない。要望が出ているのだから、市民目線でしっかりやっていかなければならない。職員に対して、対応できるか・できないか、その理由や予定、時期など、しっかり返していくことを再度徹底させていただく。<br/> （※当該要望書の案件については、工事完了済。関係者に連絡済であったが、発言された方にも後日その旨を伝えた。）</p>  |
| <p>まとめ</p>   | <p>&lt;市長&gt;<br/> 人口減少は、地域の活力を蝕むものだと思う。人口は減っていく前提だが、地域の中で活動する人を増やすことが地域の力を維持していくためには必要だと思う。周布でも、元気に活動するチームを作っていくことが地域の活力に繋がるものと信じている。<br/> 行政も市民の皆さんと一緒に作り上げていく姿勢である。皆さんから伺ったご意見にしっかりとお返しするように心がけるので、忌憚のないご意見を寄せていただきたい。<br/> &lt;連合自治会長&gt;<br/> 市の政策、方針について理解することができた。また、周布地区のことについても市長に伝えることができた。<br/> 今後も市長と協力しながら、住みよい地域を目指して、盛り上げていきたい。</p>   |

<当日の様子>

